

# ◎シリーズ 長岡京歴史散歩

⑬

## 長九小学校区の遺跡②

↳ 神足遺跡の環壕かんこう↳

JR長岡京駅の周辺に広がる神足遺跡は、京都盆地を代表する弥生時代の大規模な集落跡として有名で、このシリーズにもたびたび登場しています。

神足の弥生集落では、居住域と墓域が一体となつて見つかかり、居住域を取り囲むように墓地が形成された構造であることが解明されつつあります。

ただし、環壕集落という居住域の周囲に溝を巡らした典型的な弥生集落であったかどうかは、数多くの調査が行われているにもかかわらず明らかではありませんでした。ところが、平成14(2002)年の冬、駅の東口に近接する東神足一丁目での発掘調査で、立派な溝が相次いで確認されました。

新たに見つかった溝は、断面形がU字またはV字の形に掘り窪くぼめられていて、幅は2〜2.5メートル、深さは0.8〜1メートル程度の規模ですが、本来はさらに広く、深かった可能性が考えられました。また、溝内には数多くの弥生土器や各種類の石器、それに分銅形土製品という珍しい遺物なども捨てられていました。

こうした溝の形や規模、発掘された場所などを考え合わせると、環壕と考えられる結論に達し、これによつて神足の弥生集落も環壕を伴っていたことが確定したのでした。

(財)長岡京市埋蔵文化財センター



▲ 環壕の調査風景 (西から)



▲ 環壕内の土層たい積状況 (東から)